

Title	会話の応答におけるメタ言語表現の使用：発話意図への言及
Sub Title	
Author	田中, 妙子(Tanaka, Taeko)
Publisher	慶應義塾大学日本語・日本文化教育センター
Publication year	2025
Jtitle	日本語と日本語教育 No.53 (2025. 3) ,p.45- 55
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	調査報告
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00189695-20250300-0045

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

会話の応答におけるメタ言語表現の使用

—発話意図への言及—

田 中 妙 子

1. はじめに

会話は、一人の参加者の発話に対して次の参加者が何らかの発話で応答する過程を繰り返しながら進行する。本稿では、その応答部分において発話者がどのようなメタ言語表現を用いるかを観察する。ここでいうメタ言語表現とは、自分または相手の用いる言語コードについて言及する表現を指し、会話の中では、情報のやり取りとは別の次元で、このメタ言語表現によるやり取りが行われていると考える。

田中（2018）では、会話で相手の発話に応答する際にどのようなメタ言語表現が用いられるかを概観し、田中（2020）、田中（2024）では、発話者が会話展開の異常に言及することによって、会話展開を調整・修正するという機能について分析を行った。また、田中（2023）では発話者が相手の言語形式の異常に言及することによって、相手と自分との意識の違いや心理的距離を測りつつ話題や発話内容を調整する機能について分析を行った。

以上の調査・分析では、会話の応答に見られるメタ言語表現のうち、相手との会話展開に言及するもの、および相手の言語形式に言及するものを取り上げたが、本稿では、第三のメタ言語表現として、相手の発話意図に言及するものについて用例を採取し、分析を行うこととする。これは、相手の発話の意図や目的を言語によって明示することによって、何らかの機

能を発揮する種類のメタ言語表現である。

2. 研究対象と用語の定義

これまでと同様、分析の記述のため、会話参加者の一方が何らかの発話を行い、もう一方がその内容に応答するという発話連鎖を「第一発話」と「応答」に分ける。そして、第一発話を行う者を「第一発話者」、それに対して応答する者を「応答者」と呼ぶ。分析は「応答者」が「第一発話」のどのような要素について言及したかに注目して行う。なお、「第一発話者」は基本的には「応答者」に向かって発話をするが、三者以上が参加する会話では、それに当たらない場合もある。例えば、発話者 A と発話者 B のやりとりを発話者 C が聞いて、発話者 A、または発話者 A と B の発話に対して何らかのメタ言語表現を発するというような場合である。その場合は、発話者 C を「応答者」とする。また、「第一発話」は必ずしも一回のターンとは限らず、複数のターンによって構成されることもある。さらに、「第一発話」と「応答」との隣接ペアの間に、別の発話や隣接ペアが入り込む場合もある。

3. 分析

以下、応答者が第一発話者の何に言及し、どのようなメタ言語表現を行っているかを整理する。

用例は、問題とするメタ言語表現を下線で示す。また、[] に筆者が内容理解のための補足情報を加え、【 】 に用例出典の略称を示す。出典一覧は稿末に記す。

3.1 相手の発話意図を推測し、指摘・確認する

最も典型的な例として、応答者が第一発話者の発話からその発話意図を推測し、発話行為の型として指摘・確認するメタ言語表現が挙げられる。例 1～6 は、相手の発話の意図を「皮肉、告白、脅し、褒め、自慢、当てこ

すり」といった発話行為として捉え直し、それを指摘したり確認したりしている。

例1 [定食屋の店主源治と警察官の世々塚、虎松がニュースを見ている。女性キャスターの伊織が殺人事件について報道している。] 世々塚「はあ……伊織さまは今日も最高だなあ」源治「五年も経ったら迷宮入りだろ……警察はちゃんとやってんのかよ」世々塚「おいおい源治さん。それは俺たちに対する皮肉すか」源治「あんたらのことは警察だと思ってねえよ」虎松「おおい！（苦笑）」【unknown85】

例2 加藤「なあ、俺さ、前に女の子に興味ないって言ったよな」世之介「え、そんなこと言ったっけ？」加藤「…俺さ、男の方がいいんだよ」世之介「え」加藤「…わかるか？」世之介「それって…え、俺に告白してるってこと？」加藤「してねえよ、お前タイプじゃねえし。とにかく、そういうことだから、それで、今後、付き合いづらいようだったら、もう家来なくていいし」【横道 24】

例3 [警察の不祥事を取材している三上記者が山崎刑事の写真を撮る。] 山崎「自分たち、勝手に発言できませんから。署の回答が公式なんで。肖像権侵害はなくても、場合によっては公務執行妨害になりますから、国民としてのご用がなければ退去してください」三上「それ、脅しですか？」奈良「おい……！」【ポチ 70】

例4 [茂はライブハウスの経営権を浩太に譲った。経営が順調に行っていることを浩太に感謝する。] 浩太「どうして俺だったんすか？」茂「お前しかいなかったんだ」浩太「それ、褒め言葉ですかね？」茂「最大級の賛辞のつもりだよ」浩太「へへっ…あざす」【イージー 43】

例5 直木「33歳、おめでとう」乾杯する二人。直木はコックコートのまま。しかし一緒にテーブルに着いている。悠依「ありがとう。あーでも33か。歳とっちゃった」直木「中学んときからさほど変わんないけどな」悠依「一応、褒め言葉として受け取ります」直木「(笑って) …まあ、食べてよ」悠依「うん、いただきます」【100万 30】

例6 貫多「それって、もしかして、コンパというやつか？」正二「ああ」貫多「じゃ、女もくるんだな」正二「女子大に行ってる子もくるって言ってたな」貫多「それって、ほんとかが混じってしちゃまずいのか？」正二「そりゃ、まずいだろうな、もともと俺が声かけての集まりじゃないし、もう人数が決まった上で店もセッティングしてあるんだろうし」貫多「何だ、そりゃ、自慢かい？」女子大に行ってる子がどうのこうのなんて、こっちが聞いてないことまで得々と披露したりして、それは中学しか出てないこのほくに対する、当てっこすりのつもりか？」正二「馬鹿、お前がコンパなのかって聞く

から、そうだと答えてやったまでのことだろ」【苦役 84】

また、例 7～9 では、応答者が第一発話者の発話に含まれる裏の意図や特別な感情について推測し、指摘している。例 7 では、第一発話者の野球選手に対する批判的な発話から、応答者は「ひがみ」の感情があることを推測して指摘し、例 8 では、第一発話者の「音楽は技術だけではない」という発話から、演奏技術の不足をごまかそうとする行為を応答者は「逃げ」と推測して指摘している。また、例 9 では、「相手を緊急連絡先にしたい」という第一発話者の発話に応答者は「プロポーズのニュアンス」が込められていると推測し、それを指摘している。

例 7 「春文がプロ野球選手からサインをもらって喜んでいる。」御所「ふーん、そんなに嬉しいんだ」春文「そりゃ、スター選手ですよ」御所「飛んでるボールを棒で叩くのが上手いだけの人間だけどね」春文「は？」御所「まあ、走るのがホモ・サビエンスの中で早いだけで世界的なスターになれる時代だからね。そこらの犬より遅いのに」春文「え、なんすか。ひがんでるんですか？」御所「ボールを棒で叩くのが上手い人間の筆跡がそんなに嬉しいか」【217 円 16, 17】

例 8 「渚が原田のギターのを腕をほめる。」渚「言っておくけど原田とか、超うまかったよ？ 圭人の 10 倍ぐらい」圭人「いや…技術だけじゃないから…音楽って」渚「出たよ、この逃げ方…」【コンフェ 49】

例 9 「高橋が家族でも恋人でもない咲子を緊急連絡先にしたいと言ったことにカズくんは違和感を覚える。」カズくん「え？ 俺がおかしいのか？ この感覚」高橋「(即答) はい」カズくん「や、絶対そんなことないし！ あ、あと緊急連絡先のくだり聞きようによってはプロポーズだろ！ そういうニュアンスちょっとは込めてるでしょ？」高橋「咲子さんそろそろ会社にいかないと」カズくん「(思わず) 無視すんなよ」【恋せぬ 18, 19】

さらに、第一発話者の発話内容や発話態度から、応答者が何らかの事柄を解釈し、指摘・確認する例も見られる。例 10～12 では、第一発話者の発話から下線部の内容を解釈し、それを指摘・確認している。また、例 13, 14 では、親しい間柄の被害者について何の情報も提供しないことや、「ちょっと話があるんだ」と切り出しながら「何でもない」と話題を取り下げたことから、第一発話者の思考や意識を解釈し、それを指摘・確認し

ている。

例 10 [正二が機械を上手に操作した後で] 貫多「おめえ、器用だな」正二「まあね、ああいうのは、コツ掴むと簡単だから」貫多「ぼくの頭が悪いって言ってるのかい」正二「そんなこと言ってないだろ」貫多「どうせ中卒だしな」正二「何言ってるんだよ」【苦役 73, 74】

例 11 [渡辺が深夜に帰宅して、うどんを食べようとする。] 詩織「これから食べるの？」渡辺「……自分でやるよ」詩織「洗うのは私でしょ！」渡辺「(苛立ち) ……」うどんを流しに投げつけた。詩織「……」渡辺「俺はな、クソ暑い中、働いて帰って来たんだよ！」詩織「だからッ？ 感謝しろ？」バスルームへ向かう渡辺。【さよなら 106】

例 12 [シェアハウス内。司は彰が当たりくじを盗んだと疑っている。彰は犯人ではないが、真犯人のために、真相を隠している。] 彰「……じゃあもう、どうすればいいのかわかんねえよ」司「それは認めるってことだな？」彰「いいのか？ 今から話す俺の話のせいで、お前ら全員、めちゃくちゃになる」【高額 33】

例 13 [刑事の亨が料亭の女将に従業員だった粕谷について聞き込みをする。] 亨「粕谷さんの自殺の動機に心当たりはありますか？」女将「いえ。あのコはもう何年も前にウチを辞めていましたからね……」亨「そうですか……こちらの料亭は亡くなった天沢大二郎さんもよく利用していたそうですが、粕谷さんと天沢さんが会ったことはあるのでしょうか？」女将「どうでしょうかね？ 天沢さんが来たかどうかかも忘れてしまいました」亨「……何か隠していると判断していいですか？」女将「(微笑んで) お役に立てなくて御免なさいね。では、お引き取りください」【相棒 (13) 91】

例 14 リエとソンホが歩いてくる。ソンホ「リエ」リエ「なに？」ソンホ「ちょっと話があるんだ」リエ「何？」ソンホ「いや、何でもない」リエ「(笑う) って言うときは、何かあるよね」ソンホ「さらっと聞いて正直に答えてくれば良い」リエ「だから、何？」【かぞく 106】

3.2 相手の発話意図を推測し、働きかける

応答者が第一発話者の発話からその発話意図を推測して指摘する点では 3.1 と同様であるが、その上でさらに相手に対して直接的な要求を行っている点が異なる。例 15～19 では、応答者は第一発話者の発話から「答えをはぐらかしている」「自分たちに物申して(意見して) いる」「自分を馬鹿にしている」「言い訳をしている」「自分を慰めている」といった意図を推測し、それを止めるように働きかけている。

- 例 15 裕美「たっくんってさ。寂しくなったりしないわけ？ 夜、一人でいるときとか」拓也「寂しくないわけないよ」裕美「でも、それをどうにかしたいとも思わないんでしょ？」拓也「さすがよくわかってるね」裕美「どうしてなの？」拓也「知らないよ。生まれつきじゃない？ そういう性分なんだろうな、きっと」裕美「ずるいよそういうの。ちゃんと考えて答えて。はぐらかさないで」拓也「俺にも全然わかんないんだよ。だけど、全然これでいいんだよ。本当に満足なんだ」【イージー 46】
- 例 16 [警察学校の同期である藤と源が口喧嘩をしているのを、山田が止める。] 山田「やめましょう。この件、警察学校時代から見飽きてます」藤と源、山田の頭を交互に引っぱたき、 藤「モノ申すな、山田のくせに」源「黙ってろ、山田の分際で」【ハコヅメ 34】
- 例 17 [司は潤が子供の時に作詞作曲した歌を歌い出す。] 司「咲くよー、咲くよー、コースモスが、咲くよー」潤「やめろって！ 幼少期の俺が頑張ったの！ 俺を馬鹿にしても、幼少期の俺は馬鹿にするな！」【高額 31】
- 例 18 大家の息子「何で来ないの？」貫多「はい？」息子「張り紙に書いてあったでしょ、家賃持ってきて下さいって」貫多「すいません、今、色々たて込んで」息子「言い訳はもういいよ。あさってまでに出て行ってよ」貫多「そんな、急に言われても」息子「(カッとなって) 急じゃないだろ、お前、いい加減にしろよ、何度も何度も催促して、いっこうに払わないじゃないか。母親なんか、参っちゃって寝込んでんだ。今すぐ出て行ってくれ。出て行かないんだったら警察呼ぶからな」【苦役 79】
- 例 19 [オギノ、トミタ、コマキの妻は三姉妹。妻たちの父親(義父)が危篤のため、三人は車で病院に向かっている。オギノは妻との離婚を考え、落ち込んでいる。] トミタ「…でも、一番オギノさん気に入ってましたよ。お義父さん」オギノ「…いいよ、そういうの」トミタ「だって四半期に一度はさすがに来てないですもん、家には」コマキ「(同意) 思いました。うちなんて一回も来てないっすよ」オギノ「え、そうなの？」【高速 62】

3.3 自分の発話に対する誤解や不適切な対応を修正する

応答者が第一発話者の発話意図を推測し、それを否定して修正を加えるメタ言語表現である。例 20～22 では、波線部分の第一発話者の発話が応答者の発話に対する誤解に基づいて行われているため、応答者はその誤解を修正するための応答発話を行っている。

- 例 20 [雅男が妻の鷹子に友達と食事をすると言う。] 鷹子「ともだちって、誰？」
雅男「う～ん、タカちゃんの知らない人？」鷹子「ふーん」雅男「あ、女子

じゃないからね」鷹子「何も言っていないけど」雅男「ウソじゃないよ、名前はね、山田ゴスケ」鷹子「ふーん、つくったみたいな名前だね」【富士 (17) 89】

例 21 「依子はいつもアパートの隣人の会話を盗み聞いている。」美紀「ああ、あの人かあ、働いて無さそうだったね」依子「そうそうパチンコばっかやってんの、でもなんか一応バイトはしてるんだって、言ってた」美紀「それ全部盗み聞いてたの？」依子「だって、暇だから」美紀「よく寂しくないね」依子「ねえ美紀」美紀「何よ」依子「寂しくないなんて誰が言った？」美紀「、寂しいの？」依子「すごい寂しい」【徒歩 21, 22】

例 22 「ハナが恋人に多額のお金を貸していることを理子は怒っている。」理子「(溜息まじり) あーもう、アンタって頭イイのに、なんでこんなにバカなわけ？」ハナ「(喜び) ほ、頭イイ！」理子「褒めてないから全然」ハナ「(肩をすくめ)」【ロビン 59】

また、例 23～29 は、波線部分の第一発話者の発話が、応答者の知りたい内容や求めている反応とは異なるため、相手の不適切な反応を修正しようとしている。

例 23 妙子「私の幸せの邪魔をする気?!」かおり「……幸せ、幸せって、何よ! 何が幸せよ! ターコの幸せって、いったい何よ?!」妙子「権利よ! 権利! 私にだって幸せになるケンリがあるのよ!」かおり「そんな事聞いてんじゃないでしょ?!」妙子「私が幸せになっちゃ、いけないっていうの?!」かおり「だから、その幸せって、いったい何なのよ?!」【ノーマイク 99】

例 24 「真木がスマートグラスをかけて、AI で保坂の経歴を調べる。」保坂「何をしてるッ!」グラスを外す真木。真木「お二人の経歴を確認させていただこうと。首長権限で個人データにアクセスできるので」佐伯「個人データに!? もちろん制限はあります。公開情報以外には、許可なくアクセスできません」保坂「そんな事は聞いてない! その態度は何だと言っている!」佐伯「そうだ、失礼にもほどがあるだろう!」【17 才 33】

例 25 「みさとは、娘の防水タブレットが故障したことについて、クレームの電話をかけ、智子が対応している。」みさと「自己責任?」智子の声「申し訳ございません」みさと「だから、謝れって言ってんじゃないの。なに、自己責任って? これ防水なんでしょ、ちょっと雨に濡れたくらいで、子供の勉強、どうすんのよ」智子「申し訳ございません。ですが、こちらではこれ以上対応致しかねまして、誠に申し訳ございません」みさと「だから、謝って欲しいわけじゃない!」【民衆 46】

例 26 「良子の息子の悠希はバイク事故で亡くなっている。良子はサッカーの話をした後、同じ事故で怪我をしたりょうの体調について質問したつもりだったが、りょうはサッカーについて質問されたと誤解して答える。」良子「そっかー。じゃあ知らないか。まあ、私も、悠希の試合しか見たことなかったけどね」りょう「…」良子「りょうくんは？」りょう「僕も、悠希の試合だけ見たことがあります」良子「あ、ごめんんそうだよ、聞き方間違えた。りょうくんは、最近どう？」りょう「…！」顔が強張りりょう。良子「身体はもう大丈夫？」りょう「…はい。大丈夫です」【クロス 69】

例 27 「咲子の親友が連絡なしに引っ越ししてしまった。カズくんは咲子が高橋の意見に賛同していることに違和感を覚える。」高橋「……まあ、もう気にしない方がいいのでは？」咲子「それってどういう（意味ですか？）」高橋「引っ越しも電話番号の件も然り、自分から離れていった人に執着しても仕方ないです。咲子さんも離れたい相手にしつこくされるの嫌ですよ？」咲子「……それは……そう、ですね」カズくん「いやいやいや。ですね、じゃねえから！」【恋せぬ 28】

例 28 「初対面の二人。翔子は自己紹介をするが、サチは母の代理で来ていて不機嫌。」翔子「元ヤン？ 私にはわかる、そうでしょ？」サチ「質問ですか？ 違います」翔子「え～そうかな？」サチ「そうかなって意味わかんない違うし、勘弁してくれないかな代理なんで私、帰ろうかな」【日曜 18】

例 29 「信二は会社で水族館のチケットをもらい、妻の愛子に見せる。」信二「……まあ、別に嫌やったらええけど（と、ご飯を食べる）」（中略）信二「……いや、ええことないわ。やっぱり行こうみんな」愛子「……なんで？」信二「なんでってことはないやろ愛子。水族館行くのになんでってことは？」愛子「でも、そんなの行ったことないし」信二「だから行こうや。この機会逃したら一生行くことないかもしれんで」【神の子 99】

さらに例 30, 31 では、第一発話者の発話が、会話のルールや発話のタイミングの面で不適切であるため、それを修正しようとしている。

例 30 「宏之は恵理の顔が若返っていることに違和感を覚え、理由を聞こうとするが、逆に恵理に質問される。」宏之「いや、だからなんか、会った時の感じの、顔というか、なんだろ、そういう、初めて会った時の感じというか」恵理「それはどういうあれなのでしょう」宏之「いやこっちが聞きたいんだけど」恵理「……何でてんばってんの？」宏之「え？ や、怒る顔しないでよ」恵理「怒ってはないよ怒ってないけど誕生日過ぎて嫌味かなーって」【きれい 87】

例 31 「信二が妻の愛子に借金があることを話した後」愛子「あのさあ……、子ども、できたみたい」信二「え……」愛子「ごめん、こんなタイミング

で」信二「いや、なに言うてんねん！ むちゃくちゃうれしいやんか!! そ
うかー！」【神の子 92】

3.4 相手の発話意図を問う

会話展開の不適切さや発話の曖昧さから、第一発話者の発話意図が推測できないため、応答者が第一発話者の発話意図を問うメタ言語表現である。例 32～35 では、第一発話者が何を言おうとしているのかを応答者が問う発話をしている。また、例 36 では、第一発話者の発話に違和感を感じたため、応答者が「なに、どうした？」と状況を問う発話をしている。

例 32 [シェアハウス内で当たりくじの券がなくなった。] 司「俺らが昨日寝た時、当たりくじはこの封筒に入れたままだったはずだよな？」彰「そのはず」司「なのに誰も持ちだしてないって。おかしいだろ、どう考えても」彰「……何が言いたいのか？」司「分かるだろ？ この中の誰かが、盗んでんだよ！」【高額 25】

例 33 [取引相手の野木が小学生社長の浩に無理な提案をする。生島は浩の部下であると同時に、父親でもある。] 生島「納得いたしかねますね」眉をひそめ唇を結ぶ野木。野木「何ですかいきなり」生島「まだ子供なんだからこちらの言う事聞いてればいい？ 弊社は適切に業務を遂行し御社はそれに見合った対価を払う。そこに上下関係はありません。子供がどうか一切関係ない。寧ろそんな事言っている方がよほど子供です」悟「……パパ」野木「さっきから何が言いたいんだ君は！」生島「先ほど説明した通りです。弊社のご要望通り対応させて頂いている。文句を言われる筋合いは一切ない」【代表 84】

例 34 弟「もしもユカが、他の男と不倫してたら、俺は泣いちゃうな～」兄「なんの話をしてるんだ」弟「犯罪の話」【コタキ 24】

例 35 [裕美が大手企業から内定をもらう。] 拓也「スーツ着るんだ？」裕美「スーツ？ まあ着るだろうね」拓也「毎日ミーティングとかするんでしょ？」裕美「わかんないけど、するんじゃない」拓也「すっげー」裕美「なにそれ」拓也「それって本当にすごいことだと思うよ」【イージー 45】

例 36 [春文がプロ野球選手からサインをもらって喜んでいることを店の同僚に馬鹿にされる。その後、店長の佐藤にも同じ話をするが、佐藤は同僚とは違う一般的な反応を示す。] 春文「ねえ店長、さっき野球の清州がきて、サインもらっちゃいましたあ」佐藤「え、そうなんだ！ 羨ましいっ」春文「……ですよね？」佐藤「ん、なに、どうした？」春文「あ、いや、なんでも……。やっぱ明日学校で自慢しよーっと」【217 円 18】

4. おわりに

応答者が第一発話者の発話意図に言及し、それに関して確認、要求、修正、質問などを行うと、第一発話者が何らかの反応を示す。それによって、第一発話者と応答者の間に共通の認識が生まれ、その新たな認識に基づいて会話の展開や内容が調整されることになる。このような調整が会話の参加者の相互理解を高める場合もあれば、逆に心理的な葛藤や対立を生む場合もあるが、いずれにしても、会話の中では、こうしたメタ言語表現が会話の展開や内容を動的に変化させる重要な要素となる。今後はさらに多様な用例を採取し、メタ言語表現の機能が生む効果について考察を深めたい。

用例資料

- (1) シナリオ作家協会編『年鑑代表シナリオ集』所収

【ボチ】高橋玄「ボチの告白」(2009 年版)／【苦役】いまおかしんじ「苦役列車」(2012 年版)／【かぞく】ヤン・ヨンヒ「かぞくのくに」(2012 年版)／【横道】沖田修一・前田司郎「横道世之介」(2013 年版)／【さよなら】高田亮・大森立嗣「さよなら溪谷」(2013 年版)

- (2) 映人社『ドラマ』所収

【徒歩】前田司郎「徒歩 7 分」(2015 年 7 月号)／【相棒 (13)】奥水泰弘「相棒 season13」(2015 年 8 月号)／【富士 (17)】木皿泉「富士ファミリー 2017」(2017 年 2 月号)／【民衆】黒沢久子「民衆の敵～世の中、おかしくないですか!～」(2017 年 12 月号)／【きれい】加藤拓也「きれいのくに」(2022 年 7 月号)／【17 才】吉田玲子「17 才の帝国」(2022 年 7 月号)／【恋せぬ】吉田恵里香「恋せぬふたり」(2022 年 8 月号)／【代表】宮本真生「代表取締役息子」(2022 年 11 月号)／【100 万】安達奈緒子「100 万回言えばよかった」(2023 年 3 月号)／【ノーメイク】水橋文美江「ノーメイクの悲劇?!」(2023 年 3 月号)／【ロビン】野木亜紀子「さよならロビンソンクルーソー」(2023 年 5 月号)／【日曜】岡田恵和「日曜日の夜ぐらいいは…」(2023 年 6 月号)／【unknown】徳尾浩司「unknown」(2023 年 7 月号)／阿部凌大「高額当選しちゃいました」(2024 年 1 月号)／【イージー】片岡陸「イージーライフ」(2024 年 1 月号)／【クロス】島崎杜香「クロスロード」(2024 年 1 月号)／【高速】武田雄樹「高速を降りたら」(2024 年 5 月号)／【コタキ】野木亜紀子「コタキ兄弟と四苦八苦」(2024 年 5 月号)／【217 円】神谷克麻「217 円の絵」(2024 年 9 月号)／【コンフェ】澤田航太「コンフェッションズ」(2024 年 9 月号)／【神の子】川恵美・野田慈伸・柴田岳志「神の子はつぶやく」(2024 年 9 月号)／【ハコヅメ】根本ノンジ「ハコヅメ～たたかう！交番女子～」(2024 年 10 月号)

参考文献

- 杉戸清樹（1983）「待遇表現としての言語行動—『注釈』という視点—」『日本語学』2 巻 7 号
明治書院 pp. 32–42
- 杉戸清樹（1989）「言語行動についてのきまりことば」『日本語学』8 巻 2 号 明治書院 pp. 4–14
- 古別府ひづる（1997）「研究報告場面における留学生のメタ言語表現：口頭発表教材のシラバス
化の可能性を探る」『山口県立大学国際文化学部紀要』3 巻 pp. 37–47
- 西條美紀（1999）『談話におけるメタ言語の役割』風間書房
- 中井陽子・寅丸真澄（2010）「講義の談話のメタ言語表現」『講義の談話の表現と理解』第 8 章
くろしお出版 pp. 153–168
- 李婷（2013）「メタ言語表現の『文脈展開機能』」『早稲田日本語研究』22 pp. 1–12
- 佐々紘子（2015）「コンフリクト時に使用される日韓のメタ言語表現に関する研究」『日本語学
研究』第 45 輯 韓国日本語学会 pp. 19–33
- Jakobson, R.（1980）Metalanguage as a Linguistic Problem. *The Framework of Language*.
- 池上嘉彦・山中桂一翻訳（1984）「言語学の問題としてのメタ言語」『言語とメタ言語』勁草書房
pp. 101–116
- Stubbs, M.（1983）*Discourse Analysis: The Sociolinguistic Analysis of Natural Language*.
- 南出康世・内田聖二翻訳（1989）『談話分析—自然言語の社会言語学的分析』研究社出版
- 田中妙子（2018）「会話の応答に見られるメタ言語表現—シナリオを例として—」『日本語と日
本語教育』第 46 号 pp. 31–44
- 田中妙子（2020）「会話の応答におけるメタ言語表現の使用—会話展開への言及—」『日本語と
日本語教育』第 48 号 pp. 19–30
- 田中妙子（2023）「会話の応答におけるメタ言語表現の使用—言語形式への言及—」『日本語と
日本語教育』第 51 号 pp. 65–79
- 田中妙子（2024）「会話の応答におけるメタ言語表現の使用—会話展開への言及（2）—」『日本
語と日本語教育』第 52 号 pp. 63–74